

鹿児島医療センター

第4回 地域緩和ケア連携 研修会に参加して



今回、令和になって初めての、地域緩和ケア連携研修会に参加させていただきました。

私は日常診療では循環器診療に携わっており、心不全診療に対してチーム医療介入を行っております。近年の高齢化に伴い、心不全の罹患数は急激な増加をみせております。また、心不全は増悪・緩和を繰り返すことで徐々に心機能が低下し、生命を縮める病気と考えられております。そのため、循環器領域においても末期心不全患者に対する緩和ケア介入が注目されており、当院でも緩和ケアなどに積極的に取り組むようにしております。

今回は鹿児島市長寿あんしん相談センターより小倉ゆりか先生、石川真紀先生にご講演いただきました。小倉ゆりか先生からは長寿あんしん相談センターの役割・業務などについてご説明していただき、石川真紀先生からは介入ケースの事例についてご講演いただきました。在宅生活支援の場では個別性が高く、また家族との関係構築などその介入の難しさを痛感しました。講演後にはグループワークの時間があり、様々な職種の方と意見交換を行うことができ、大変貴重なご意見をいただきました。

日常診療では退院支援カンファレンスなどを通して意見交換を行うことが中心になります。しかし、在宅医療スタッフにどのようなことを伝えてよいか普段から悩みながらカンファレンスに取り組んでおりました。ぜひ地域のスタッフの方からも、どのような情報が欲しいかご意見をいただければ、より多くの情報が共有できると思いました。今回の研修を活かし、より密な連携を図っていければと考えております。

(文責：第二循環器内科 石川 裕輔)



令和元年度 救急懇談会

2019年6月24日に当院の大会議室にて救急懇談会「鹿児島医療センターの変わりゆく救急医療」を開催しましたので報告します。今回は以下のA.B.の2つに焦点を当ててプレゼンしました。

A. 当院救急科Dr.が鹿児島市立病院のDr.-carとDr.-heli事業にプレホスDr.として参加した経験と感想

B. JNP(臨床看護師)の当院での役割

まずA.に関してですが、プレホスDrとして今年の4月から参加させていただいています。今までは急患を受ける側でしたが、carやheliでの患者さんへの接触、診断、処置、搬送を経験しました。プレホスの現場はカオスで大変であり、簡単なトリアージはできるものの正確な診断には限界があることや、病院外という現場での処置の困難さを感じました。また処置後に受け入れ先の病院の選定を速やかに行うことが何より重要であり、以上の経験から受け入れ側の病院として、当院もさらに可能な限り協力すべきと再認識しました。

次にB.に関してですが、当院初のJNP(新坂享子氏、伊藤由加氏)です。JNPが医療に参加することが、当院での現場にどのような化学反応を引き起こすのか非常に興味がありました。当院救急科を3ヶ月間手伝ってもらいました。私の監督と助言のもとでの救急患者さんへの初期対応(診察と検査オーダーと超音波検査などの検査)を行い、さらに治療法を選択まで行ってもらいました。私としては医療の知識や技術的な側面を徹底的に習得させることに専念したつもりでした。しかし当然のことですが、良い意味でJNPは医師ではありませんでした。医療の技術的側面の実践は当然の如く習得していただきましたが、それだけでなく彼女らはJNPとして研修医や新人看護師への助言や教育をおこない、さらに検査技師、放射線技師や事務方への連絡や調整まで自然にこなしていました。JNPを中心として救急科全体をあらゆる部門を巻き込む形で活性化していただいた印象です。今後さらなるJNPの活躍に期待したいと思います。

上記の内容でプレゼンしました。院内スタッフ31人と消防からは39人が参加していただき当院救急科とJNP導入に関して報告しました。

(文責：救急科部長 田中 秀樹)



診療看護師

(JNP : Japan Nurse Practitioner)

の紹介



診療看護師とは、5年以上の看護経験のあるベテラン看護師が2年間大学院で医学と薬学の教育を受け、修士課程を卒業した看護師です。医師の包括的な指示のもと、医師と同じように診療や簡単な処置ができると認められています。もともとはアメリカで医師不足の解消目的に始まった制度であり、日本でも2025年の超高齢化社会の到来、医師不足・医師数の地域間での格差などの問題に対応するために、2008年に診療看護師の養成を開始しました。現在全国には約400名、鹿児島県に4名の診療看護師がいます。私たちは2年間の研究休職制度を用いて大学院に進学し、診療看護師資格試験に合格した後、本年4月に診療看護師として復職しました。



現在は、統括診療部長のもとで、各診療科の医師に指導を受けながら、2年間研修医の先生と同様の研修を行っています。

患者様に安心・安全を担保した医療を円滑に提供することを目標に、医師一看護師一多職種と連携し、医療や看護のボトムアップに貢献できるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(文責：診療看護師 伊藤 由加・新坂 享子)



新任紹介



心臓血管外科 重久 喜哉

7月から心臓血管外科で勤務させて頂くことになりました、重久喜哉と申します。鹿児島医療センターでの勤務は11年ぶりとなります。久しぶりの鹿児島医療センターでの勤務で、まだまだ不慣れな点も有りますが、少しでも早く慣れて鹿児島の医療に貢献したいと思っております。11年の間、成人心臓外科だけではなく、消化器外科や小児心臓外科、臨床研究とさまざまな領域での診療、研究を行って参りました。医師としての幅は広がりましたが、成人心臓外科領域においては技術的にまだまだ未熟であります。患者さんや医療スタッフのみならずから信頼されるように自己の研鑽にも励んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



小児科 井上 博貴

7月から勤務させて頂いております、小児科の井上博貴と申します。今までは地方病院で小児科の一般的な疾患をメインにみていましたが、鹿児島医療センター小児科では小児循環器疾患をメインでみており、専門性が高くとても勉強になっております。以前、初期研修医の時に鹿児島医療センターでお世話になったことがあります、久しぶりの鹿児島医療センター勤務で慣れないことも多々ありました。早く業務、病院のシステムに慣れるように頑張りたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。



放射線科レジデント 大瀬 新

4月から放射線科で勤務させて頂くこととなりました、大瀬新と申します。卒後4年目となります。新しい環境で慣れないことばかりですが、まずは早く慣れて日々多くのことを学びながら、患者さんや、スタッフの方々のお役にたてるように研鑽を積んでいきたいと思っております。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、ご指導の程、何卒よろしくお願いいたします。



外科 塗木 健介

7月より勤務することになりました外科の塗木健介と申します。卒後30年以上が経過し、外科の平均年齢を上げてしまいましたが、体力はまだ残っていますので、若者たちに負けまいと頑張りたいと思います。着任後、学生時代の同級生達の再会に懐かしさを感じ、また働きぶりに刺激を受けています。外科、消化器外科チームとして、今後のさらなる発展に貢献出来るよう、また病める患者様の為に、少しでもお役に立てるよう努力したいと思います。よろしくお願いいたします。



小児科 二宮 由美子

7月より小児科で非常勤医師として勤務させて頂く事になりました。当院にはレジデント時代と、3年前にもお世話になりました。子育て真っ最中であり、仕事と子育てのバランスを模索中です。院長をはじめ先生方のご理解とサポートの上、勤務体制などご配慮頂き大変感謝しております。来院する子どもたちに寄り添い、成長を見届ける小児科医としての楽しみと喜びを日々感じながら、少しでも小児医療に貢献できるように努めます。どうぞ宜しくお願い致します。



麻酔科レジデント 佐保 辰仁

7月より麻酔科レジデントとして勤務させて頂くことになりました。佐保辰仁と申します。2018年4月に麻酔科へ入局し大学に勤務しておりました。新しい環境の中、自分自身未熟な点も多く、何かとご迷惑おかけするところもあるかと思いますが、当院の一員として貢献できるよう頑張りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



第一循環器内科 新地 秀也

7月から勤務させて頂いております第一循環器内科の新地秀也と申します。卒後6年目となりますが、2019年4月から循環器を専攻しており、まだ3ヶ月と日が浅いため、皆様にはご迷惑をおかけすると思いますが、病院のシステムを含めて早く慣れていくことができるよう頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 蘭田・丹後田・西辻・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・山之内・山口

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

